

# 一般社団法人 聖路加看護学会 ニュースレター

第20回聖路加看護学会学術大会開催にあたって 第20回聖路加看護学会学術大会ご案内  
 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金採択者報告 平成26年度学術交流会報告  
 第20回学術大会「教育と実践のハーモニー」関連文献・情報の紹介 理事長挨拶 お知らせ 編集後記

## ●第20回聖路加看護学会学術大会開催にあたって

第20回学術大会 大会長 松谷美和子（聖路加国際大学 看護学部）

「教育と実践のハーモニー」——第20回聖路加看護学会学術大会のメインテーマです。実習の質への疑問や危機感から発したテーマです。

実習は実践の場で行われる真剣な学びです。実習にはさまざまな段階があります。たとえば、①専門職者としての基礎的な学びへの動機付け、イメージ化を生み出すためのシャドウイング実習、②良好な対人関係構築の入り口としてのコミュニケーション実習、③人々の生活上のケアを看護学生としてはじめて行う看護実習、④看護の各領域を系統的に学んでから行う臨地実習、⑤学びの総集編となる統合実習、さらに⑥学生から新人への橋渡しとなる移行期の実習などがあります。

基礎教育のなかで、学生は看護職者になることがどのようなことなのか、その考え方、振舞い方、専門職者であるための責任の果たし方について、さまざまな実習体験から学ぶことになります。そこには、不安、動揺、悲しみ、いらだち、焦り、感動、感激、感謝など数え切れない多様な体験があります。それゆえに、通常の学習の何倍もの重みがあり、達成感がともないです。何よりも自分の存在意義を問う厳しい体験でもあります。

このような学生の成長のプロセスに伴走する教師にはどのようなことが求められるのでしょうか。また、同じプロフェッショナルとして、同業者を育てる実践者はどのようにこれに参加することがベストなのでしょうか。実践の基盤を育み、実習生として実践の場に送り出す教員。実習生を受け入れ、学生が育んだ能力や資質を日々の看護実践のなかで発揮できるように育てる現場の看護職者。両者の共同によって、充実した実習が実現できるように具体的に考えることのできる一日としたいと存じます。次のプログラムを準備し、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### ●第20回聖路加看護学会学術大会ご案内

会期：2015年9月19日  
 会場：聖路加国際大学 本館（東京都中央区明石町10-1）  
 メインテーマ：教育と実践のハーモニー

#### ◆プログラム

〈大会長講演〉

「聖路加国際大学と病院の変革：大学に焦点を合わせて」  
 松谷美和子（聖路加国際大学看護学部）  
 座長：吉田 俊子（宮城大学看護学部）

〈特別講演〉

「聖路加国際大学と病院の変革：病院に焦点を合わせて」  
 柳橋 礼子（聖路加国際病院）  
 座長：吉田 千文（聖路加国際大学看護学部）

〈シンポジウム〉

「教育と実践のハーモニー」  
 北里大学病院看護部と北里大学看護学部の取り組みを通して  
 別府 千恵（北里大学病院）  
 多様な教育機関から実習を受け入れている立場から  
 佐々木菜名代（川崎市立多摩病院）  
 実習を担当する大学教員の立場から  
 西田 朋子（日本赤十字看護大学）  
 臨床教員導入による臨地実習教育の変化について  
 演者交渉中（昭和大学保健医療学部看護学科）  
 座長：菱沼 典子（聖路加国際大学看護学部）・  
 柳橋 礼子（聖路加国際病院）

〈一般演題〉

演題申込方法については、第20回学術大会 HP (<http://plaza.umin.ac.jp/slnr20/>) をご覧ください。

演題締切：2015年5月11日（月）正午

◆参加費 \*事前申込は2015年8月31日（月）まで受け付けます。

学会員 ￥5,000（当日参加 ￥6,000）

非学会員 ￥6,000（当日参加 ￥7,000）

学生 —（当日参加 ￥3,000）

当日学生証をご提示ください。

◆振込先（郵便振替口座）

口座番号：00160-4-634234

フリガナ：ダイニジツカイセイルカカンゴガツカイガクジュツタイカイジムキョク

加入者名：第20回聖路加看護学会学術大会事務局

◆領収書

郵便振替票をもって領収書にかえさせていただきます。

◆お問合せ先

第20回聖路加看護学会学術大会事務局  
 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1  
 聖路加国際大学看護学部松谷研究室内  
 第20回聖路加看護学会学術大会事務局  
 e-mail アドレス：slnr20@slcn.ac.jp

# 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 採択者報告

2013年度の聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金「研究助成」は2名の方が採択され、第19回学術大会にて、その成果が発表されました。本号では、改めて採択者の皆さんに、学術大会の報告を含め、研究の動機、実施において難しかった点、成果を得たときの喜びなどを書いていただきました。

## 2次分析 (Secondary Analysis) を経験して

瀬戸山陽子 (東京医科大学医学部看護学科看護情報学)

一昨年、私は学会より助成金を頂き研究を行いました。研究の内容は、乳がん体験者が同じ乳がん体験者の「語り」に触れる場合、「映像を観る」と「テキストを読む」という視聴方法によって、「語り」から受ける印象が異なるのかを探ること。この研究で題材にした「病いの語り」を集めているウェブサイト“DIPEX (Database of Individual Patient Experiences)”では、個人の「語り」を映像で視聴できるのですが、語った内容と同じテキストも掲載されているため、「映像を観る」とことと「テキストを読む」とことの2種類の方法で視聴することができます (ぜひDIPEXのウェブサイト <http://www.dipex-j.org/> をご覧ください)。今回の研究は、その視聴方法によって視聴者が持つ印象がどのように異なるかを示すことが目的でした。

結果は興味深いことに、「映像を観る」時と「テキストを読む」時で、受け手が抱く印象が異なっていました。医療におけるナラティブの活用が目目されて久しいですが、例えばそれを当事者に提供する場合、提供方法によって当事者に与える影響が異なる可能性があるようです。

今回の研究では、興味深い結果が得られた以外に、研究過程での「新しい経験」が個人的に意義あるものだったと感じています。タイトルにある、2次分析 (Secondary Analysis) を初めて行ったことです。2次分析には多様な定義がありますが、今回は、「1次分析の研究とは異なるリサーチクエスチョンに解を得るためにデータを分析する」というもの。これが実は想像以上に難しいプロセスでした。言うまでもなく研究は、研究者が協力者から何を引き出したくて問を設定したのがとても重要です。リサーチクエスチョンを立て、理論的なモデルを推敲し、協力者に馴染みやすい文で各質問項目を洗練させる。データ収集後は、個人の回答の仕方や自由記載に目を配りながら分布を想像し、データセットを整えて分析の準備をする。これが今まで私が行ってきた、量的研究における分析準備のプロセスでした。しかし2次分析の場合、分析準備までのプロセスが省略されています。そのため最初にデータセットを手にした時は全く自分の手に馴染んでおらず、文字通り、他研究者が整えた質問項目に対する回答の羅列でしかありませんでした。

今回2次分析に取り組むことで、改めて量的研究も協力者と研究者の相互作用の面があることに気づかされました。2次分析を行う場合、1次分析の研究者から各質問項目の意図を丁寧にヒアリングすること、ヒアリングできない場合でも、データの傾向を感じ取れるまで質問項目とデータを行ったり来たりして、データと仲良くさせてもらう努力が必要だと感じた次第です。この感覚は、ゼロから研究を手掛ける時にはあまり意識しなかったことでした。今回学会から助成を受け、研究においてひとつ経験値を積ませて頂いたことに、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

## 地域における高齢者と子どもの世代間交流を用いた看護実践評価法の確立

糸井 和佳 (帝京科学大学医療科学部看護学科)

2013年度に聖路加看護学会看護実践科学研究助成を受け、「地域の高齢者と子どもの世代間交流効果の客観的評価法を確立」というテーマで研究を実施した。世代間交流学は看護学、教育学、社会学、小児発達学、老年学など様々な分野にまたがる学際的な学問である一方で、独自の理論の構築や理論の検証が遅れていると指摘されていた。地域の中で高齢者と子どもが共に活動することでは、高齢者は自らの知恵を次世代に伝えることで自己効力感の向上につながり、子どもは自身の存在が喜ばれる体験を通して自尊心の向上となり双方にメリットがある。交流による個人への効果を客観的に測定できる尺度を作りたいという思いが、本研究の原点だった。

尺度は、地域世代間交流観察スケール Community Intergenerational Observation Scale for Elders and Children 高齢者版 (CIOS-E)、子ども版 (CIOS-C) とし、項目数に見合う数として高齢者180名、子ども160名の観察を目指してデータ収集を始めた。研究助成により、様々な世代間交流プログラムを観察に行くことができた。調査を始めて気づいたことは、世代間交流の方法は、実施主体の実情に合わせて、実に多様な場で多様な方法がとられていることだった。実施主体は小学校、地域、施設に大別されたが、小学校では、中休みの時間に地域の高齢者が来て、あやとりやベーゴマなどの昔遊びを子どもに教えたり、授業の中で絵本の読み聞かせの方法を教えたりしていた。地域では、地域の親子を対象に地域の高齢者が料理教室を開催しており、子どもが大人に見守られながら包丁で食材をきり、その親も高齢者の子どもへの接し方を学んでいるようだった。施設では、特別養護老人ホームの入所高齢者に幼稚園児がお遊戯を披露したり、七夕の飾りを一緒に作ったりしていた。認知症のある高齢者も、子どもがくると「よく来たねえ〜。めんこい (可愛い) こと」とたちまち笑顔になり、子どもを迎え入れていた。高齢者版尺度得点では、子どもを迎え入れるという交流行動は、認知症のある高齢者も、認知症のない高齢者と有意差がなかった。また、日常的に世代間交流のある地域の子どもの、物おじせずに大人と話す様子も印象的だった。子ども版尺度得点では、過去に高齢者と交流経験がある子どもは社会的スキルが高く、交流行動も高得点という結果であった。

一昔前は、日常的に見られていた高齢者と子どもの世代間交流を現代で再現するためには、小学校、地域、施設同士が、世代間交流の価値を理解し、手を組むことが不可欠であり、画一的な方法では行えない。難しいけれど、それを実現しつつけていることが地域の高齢者と子どもの関係性を育み、次世代を見守る地域づくりにつながっていると感じた。

最後になりましたが、本助成を頂いたことに、深謝いたします。

# 平成26年度学術交流会報告

## 「看護職が行う起業と看護の可能性」

近年、在宅ケア領域では、人々のニーズに沿った、自分たちの看護を実現するため、事業所の運営を担い、起業する看護職の活躍が始まっています。そこで、今回の学術交流会は、「看護職が行う起業と看護の可能性」をテーマに取り上げました。

2014年9月20日（土）17:00-18:20、聖路加国際大学本館301教室にて、学術交流会が行われ、39名（学会員13名、非学会員26名）の参加者が集いました。まちのナースステーション八千代管理者の福田裕子さんを講師に迎え、「看護職が行う起業と看護の可能性」について、看護活動の現状や課題についてご講演いただきました。参加者から質問や意見が出され、活気あふれる時間になりました。



## 参加報告



福田さんは、臨床や看護教員の経験を経て、2011年まちのナースステーション八千代を立ち上げ、現在に至る。まちのナースステーション八千代とは、訪問看護、訪問リハビリを提供する事業所である。

まちのナースステーションは、駅から近い商店街の一角にある。ガラス張りので、商店街を歩く人の目に留まりやすい。介護、看護、医療の相談窓口としてのコミュニティスペースを目指しているとのことであった。まちのナースステーションがそこに「あり続ける」ことで、地域住民に安心感を提供したいという福田さんの思いがある。まちのナースステーションのスタッフは、地域のイベントや祭りにも積極的に参加し、介護や看護の相談のブースを設けて、住民と触れ合う機会を作っている。こうした一つ一つの活動を通して、住民とふれあい、住民を知る。訪問看護の普及にもつながる。こうして、福田さんは、直に地域コミュニティを捉える。地域コミュニティを捉える力は、少子高齢社会の在宅ケアを支える訪問看護に求められているといえるだろう。

訪問看護の仕事は、在宅療養生活から看取りまでの支援ができるというメリットがある一方、スタッフにとっては、ハードな側面がある。雨風の天候の影響を受ける。また、基本的には、一人で訪問し、看護を提供するという責任が伴う。こうした中、事業所の理念からケアの提供方法まで、いかにスタッフで共有していくかが一つの鍵を握り、スタッフ間でよく話し合うという。チームワークが基盤になる。福田さんは、スタッフの状況に配慮しながらリーダーシップを発揮していく。さらに、訪問看護が初めてのスタッフもいて、教育的な関わりも求められる。しかし一方で、収入や支出の計算を行い、経営状況と常に向き合う。経営者としての力量が求められるのである。まちのナースステーションがそこに「あり続ける」ためには、安定した経営を考えなければならない。福田さんは、質の高い看護の提供、リーダーシップ、経営等、常に多面的に考えながら仕事に取り組まれている様子であった。



日々、重責を担う福田さんであるが、どのように乗り越えているのか？福田さんは、仕事に関しての自分の強みを紙に書き出し、整理して、自分を振り返ってみる時間を持つとのことであった。日々の生活、日々の仕事に向かう中で、自分の視野が狭くなったとき、自分の強みを書き出すという作業。ポジティブに自分を見つめることで、明日への活力が湧いてくるのかもしれない。

（リポーター：学術交流委員会委員 小野若菜子）



*Lobby*

第20回学術大会「教育と実践のハーモニー」  
関連文献・情報の紹介



看護系大学が230校を超え、大学の看護系教員の質が問われています。その中で基礎教育と臨床実践とのギャップが、ますます広がっているように感じています。第20回聖路加看護学会のテーマである「教育と実践のハーモニー」は、こうした危機感から発しています。当日は、このテーマについて、皆さんと意見交換をしたいと考えております。以下に、テーマに関連して、米国における取組みと、当学会誌掲載論文をご紹介します。特に米国における、新卒の看護士が長期の研修プログラムで大卒者としての実力を開発するという取組みから、基礎教育と臨床実践とのギャップは、日本特有のものでないことがうかがえます。

米国における取組み～ UHA/AACN 看護師研修プログラム：  
<http://www.aacn.nche.edu/education-resources/nurse-residency-program> [参照2015-02-25]

米国大学ヘルスシステム連合（UHC）/米国看護系大学協会（AACN）レジデンシープログラムは、看護師長らの大卒看護師に臨床で働いてほしいという望みに応えて構築された。現在、30州で92のプログラム提供機関が存在し、プログラム修了生は26,000人にのぼる。研修には公式のカリキュラムが採用されており、カリキュラムを開発した教員やスタッフが毎年内容更新を実施している。カリキュラムは、クリティカル・シンキング・スキル、患者安全のためのデータ活用能力を高めるように考案されている。プログラムを通して、リーダーシップ力、文献を検討しエビデンスを分析する力、患者ケア改善のためにデータを適用する力、専門職者としての能力開発力を身につける。

（次ページへ続く）

(Lobby 続き)

**当学会誌掲載論文：**

<http://arch.slcn.ac.jp/dspace/handle/10285/17> [聖路加国際大学リポ  
ジトリから全文閲覧可能]

- \* 松谷美和子, 佐居由美, 大久保暢子他：看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める「総合実習（チームチャレンジ）」の評価—看護学生と看護師へのフォークラスグループ・インタビューの分析—, 聖路加看護学会誌, 13 (2), 71-78, 2009.
- \* 松谷美和子, 三浦友理子, 平林優子他：看護実践能力：概念, 構造, および評価, 聖路加看護学会誌, 14 (2), 18-28, 2010.
- \* 松谷美和子, 佐居由美, 奥裕美他：看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力—1年目の看護師への面接調査の分析, 聖路加看護学会誌, 16 (1), 9-19, 2012.
- \* 高屋尚子, 松谷美和子, 寺田麻子他：看護系大学新卒看護師に求められる臨床看護実践能力：新卒看護師育成経験のある看護師への面接調査, 聖路加看護学会誌, 17 (1), 27-34, 2013.
- \* 三浦友理子, 松谷美和子, 高屋尚子他：学士課程卒業看護師が卒後1年間に必要であると認識している臨床看護実践能力—2年目看護師の振り返りに基づく面接調査の分析, 聖路加看護学会誌, 17 (2), 3-12, 2014.

聖路加国際大学においては、新しい看護系大学教員の養成をめざす取り組みが始まっています。こちらに合わせてアクセスしてみてください。

**聖路加国際大学大学院「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」:**  
<http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/fnf.html>

質の高い看護職人材の養成という社会ニーズに応え、看護系大学教育の充実に貢献するため、文部科学省「看護系大学教員養成機能強化事業」として開始した取組み。未来の看護系大学教員フューチャー・ナースファカルティ (FNF) は、優れた実践能力を教育に結びつけることができるクリニカル・ナースエデュケーター (CNE) と研究能力が高い教育者の両者を指す。このプログラムでは、両者が協働し看護系大学の教育を行っていき方方をめざす。

**理事長挨拶**

三寒四温の頃、会員の皆様には今年度の仕上げの時期、ご多忙にしておられることと存じます。このニュースレターがお手元に届く頃は新たな年度の風が吹いていることと思います。本学会のニュースレターも2015年4月からは、法人化に伴い一般社団法人聖路加看護学会として改めて歩み始めることになりました。定款の作成、法人化に向けた段取りの調整など、多くの先輩方に導いていただき何とかこぎつけてまいりました。各委員会におかれましては、1年分の会費で、1年半の活動をしてほしいなどと無茶なお願いもいたしました。交通費や、時間外の会議や作業も多かったと思いますが、おかげさまで、この過渡期を乗り切ることができました。学会運営に関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

本学会理事長を拝命したのが2008年10月ですから、7年目を迎えようやく前理事会から引き継いだ法人化に関する検討を終えることができました。

さて、法人化するという事は、人格のある団体として責任をもって役割を果たすということ、そしてそれを簡単に終わらしてはいけないということだそうです。臨床実践を大切に、互いに学びあう場をつくるという聖路加看護学会の主旨はこれからも変わることはありません。少子超高齢社会の中で、看護は何を変え、また、何を変えないで人々の健康的な生活を支援していくことができるのでしょうか。病氣と治療と生活をよく知っているからこそ豊かにわき出でてくる看護の発想力をもって、前例のない社会構造にける人々の支えになることを考えてまいりましょう。もう1年、これまでの理事会メンバーが次につないでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

**お知らせ**

**★学術交流委員会**

今年度も「聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金制度」による研究助成を行います。応募者の中から2015年度の助成対象研究を選考いたしました。

また、今年度も学術交流会を実施します。学会員のニーズにあった交流会を開きたいと思いますので、希望のテーマがございましたら学会にお寄せください。学会メールまたは学術交流委員会メンバーに直接お話しください。

(交流委員会委員：松谷美和子・佐藤エキ子・高井今日子・小野若菜子・飯田真理子・伊東美奈子・佐竹澄子)

**★庶務**

・いよいよ2015年4月から本会は一般社団法人に移行します。最終の事務手続きへのご協力ありがとうございました。

・現在の会員数は655名(2015年3月10日現在)です。まもなく新しい「入会のしおり」ができます。入会申込書は、HP「入会案内」ページからダウンロードすることもできました。聖路加看護学会員は聖路加国際大学の図書館を利用できるメリットがあります。ぜひ、近くの方の関心を誘い入会をお勧めください。

・4月は異動の時期です。皆さまの勤務先や所属、住所などの変更がありましたら学会事務局まで速やかにご連絡くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。事務局への連絡は郵便、FAX、E-mailのいずれかでお願いたします。(担当理事：佐居由美・森 明子)

**★学会誌編集委員会**

最近、二重投稿の疑義がある論文について編集委員会で検討を行いました。本学会では、これまで研究倫理に関する規定は、投稿規程の8番目に「倫理的配慮、および利益相反の有無について明記すること」と記

載されているので、具体的に研究者が遵守すべき倫理規定は明文化されていませんでした。3月の理事会で、研究倫理に関する規定を含んだ新投稿規程に盛り込むことが承認されました。次の投稿期限は、2015年5月末日です。たくさんのお投稿をお待ちしています。(亀井智子)

**★会 計**

日頃より当学会運営へのご協力をいただきありがとうございます。2015年度会費につきましては法人化した4月1日以降にご案内申し上げます。本年度分、過去の年会費の納入がお済みでない方は、振込をお願いいたします。当該年度の会費納入確認後、学会誌の送付をさせていただきます。

振込先：郵便振替口座：00100-8-670371、

加入者名：聖路加看護学会 です。

会計についてのお問い合わせにつきましては事務局にご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

(担当理事：井部俊子・佐藤直子)

**★高度実践看護開発検討委員会からのお知らせ**

前回のニュースレターで、専門看護師による看護外来の調査を行ったことについてご報告しました。慢性疾患の症状マネジメントや意思決定支援を外来で行う場面が増え、外来における看護の重要性が増えています。本委員会は、こうした研究活動などを通して看護系学会等社会保険連合(看護連)に要望を提出し、そこから診療報酬改定と介護報酬改定につなげていこうという機能を持っています。社会保障を持続可能な仕組みにしなければならぬこれからの時代に、看護の経済的評価の在り方について、小さいことから大きなことまで、会員の皆様からの考えをお聞かせいただけると幸いです。(委員長 山田雅子)

**編集後記**

担当理事を拝命してから、初めて一から制作に関わったこのニュースレター36号が、学会の法人化第一号となりました。これからも学会の歴史を刻む出来事を記録し、会員の皆様にお知らせするニュースレターを、大切に作っていきたいと思います。(奥 裕美)

●発行：2015年4月20日 ●編集：松本直子 飯岡由紀子 奥裕美 小山真理子 ●印刷：(株)イーフォー  
●連絡先：聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内  
電話 03-3543-6391(代表) FAX 03-5565-1626(代表) HPアドレス <http://slnr.umin.jp/>